

ムスカリ

別名	グレープヒヤシンス
植物分類	ユリ（キジカクシ）科ムスカリ属
園芸分類	球根植物・多年草
原産	地中海沿岸、南西アジア
花言葉	通じ合う心、寛大な愛、明るい未来



ムスカリは地中海沿岸—南西アジアにおよそ40種が分布する球根植物で、鮮やかな青紫色の花が春の花壇を彩り、チューリップなどほかの花を引き立てる名脇役と言ってもよい花です。丈夫で育てやすい秋植え球根で、植えっぱなしでも毎年よく咲き、青いカーペットを敷いたような景観が作れます。ヒヤシンスとは非常に近縁の植物で、別名のグレープヒヤシンスは花姿がブドウの房のように見えるところにちなみます。

栽培特性・管理のポイント

< 定植 >

- 植え付けの適期は9月から10月いっぱいまでです。
- 用土は、水はけのよい肥沃な土が適しており、また、酸性を嫌うので、庭植えの場合は腐葉土や堆肥、石灰を混ぜ込んでおきます。
プランターの場合は、赤玉土（小粒）7・腐葉土3の割合で混ぜた土を使います。
- 植え付ける深さは、庭植えの場合は5cm程度、プランターの場合は球根の先端が軽く隠れる程度の深さです。
また、植え付ける間隔は、5cmから10cmが一般的ですが、つめ気味に植えた方が花が咲いたときに見栄えがします。ただし数年間植えっぱなしにするなら、球根が増えることを考えてやや広めに間隔を取ります。環境が合えば、年々球根が増えて花もたくさん咲くようになり楽しいものです。

< 管理 >

- 日当たりのいい場所でよく育ちます。半日陰でも生育しますので多少日当たりが悪くても大丈夫ですが、あまりに日光が少ないと茎がひよろ長くなって間延びしたり、花付きが悪くなります。
- 水やりは土の表面が乾いたらたっぷりと与えます。ただし、夏前に葉が枯れて休眠に入ったら、水やりは必要ありません。
- 肥料は、元肥として緩効性の肥料を混ぜ込んでおきます。また、花が咲き終わった後に、球根を太らせるために化成肥料を適量株元にばらまくか、葉の先が枯れ始める頃まで、液肥を10日に1回くらい与えるようにします。

- 病害虫の被害はほとんどありませんが、まれに白絹病が発生することがあります。土の中に潜む菌が原因でこの病気にかかると株元に白い菌糸が発生し株を枯らします。被害にあった株はすぐに抜き取るようにして下さい。

＜ 花がら摘み ＞

- 開花時期は大体3月から4月いっぱいくらいまでですが、花が咲き終わった花茎は付け根から切り取ります。残った葉は青々と茂っている内は絶対に切ってはいけません。葉は日光を浴びて栄養を作り、その栄養が球根に貯えられるからです。十分に栄養を貯えられると球根は大きくなって、翌年の花も期待できますし、新たな球根もよくできるようになります。

＜ 球根の掘り上げ ＞

- ムスカリは数年は植えっぱなしでかまいませんが、球根がよく増えてだんだん窮屈になってくるので、できれば3年おきくらいに掘り上げて植え替えを行うようにして下さい。
- 掘り上げは6月頃に葉が黄色く枯れてきたら行います。葉が全部枯れてからでもいいのですが、時期が遅れると掘り上げる際に子球が自然に外れて地中に残り回収しづらくなります。
- 掘り上げた球根は風通しの良い場所で陰干しをして、葉が完全に枯れたら取りのぞいて風通しの良い場所で保存します。そして、また秋に植え付けの適期がきたら子球を手で外して植え付けます。